

第49回北海道中学校バドミントン大会 参加細則

- 1 監督は当該学校の校長・教員であること。団体戦における外部指導者（コーチ）は、当該学校の校長が認めた者とする。マネージャーは当該学校の教員または生徒とする。
- 2 団体戦でベンチに入れるのは、登録された監督・外部指導者（コーチ）またはマネージャー・選手（IDとゼッケンを付ける）のみとする。また、コーチングシートには入れるのは、監督と、コーチまたはマネージャーのどちらか1名とする。
- 3 個人戦でコーチングシートに入れるのは、登録された監督・外部指導者（コーチ）・マネージャーのうちいずれか2名、並びに団体戦に登録されている選手のみ（IDとゼッケンを付ける）とする。ただし、単の場合は練習相手として1名入場できるが、練習終了後、直ちに退場しなければならない。インターバル時は、監督・マネージャー・外部指導者（コーチ）を含めていずれか2名以内とする（団体戦も同様とする）。
- 4 団体戦のオーダー用紙は、基本的に試合開始30分前にオーダー交換所に提出すること。
- 5 入場について、団体戦及び個人戦ともに、番号の若い方（プログラムで上に記載されている方）が主審の左側に入ること。
- 6 団体戦・個人戦ともに、試合のコールがされたら直接コートに集合し、主審が来てから挨拶、マッチ前練習（2分間）、試合の順で行う。
- 7 団体戦のマッチ前練習について、団体戦の場合の練習コートは番号の若い方のコートでトーナメント表の上のチームが、残りのコートで他方のチームが練習をし、その後、第1複と単の試合を行う。なお、先に終わったコートで第2複の試合を行う。1コートで団体戦を行う場合は、トーナメント表の上のチームが先に2分間の練習を行い、続いて他方のチームが行う。団体戦・個人戦ともに、主審の合図で同時に2分間行うこととするが、双方とも必ず練習を行うものとする。
- 8 団体戦は、2コートを同時に使用しての並行試合を行う。試合の勝敗は、第1複・単・第2複のうち、いずれか2ポイントを取ったチームの勝ちとする。また、進行の関係で3コート同時に進行することがある。この場合は、できる限り監督に確認の上で実施する。また、どちらかのチームが初戦の場合は第2複まで行い、それ以降は勝敗決定（2マッチ先取）後、打ち切りとする。
- 9 試合進行はできるだけタイムテーブルにそって進めるが、時間短縮のため流し込み方式で進める。時間・コートの変更がありえるので放送に注意すること。
- 10 試合が連続する場合は、前の試合の後、15分間（但し、前の試合終了後から次の試合の「ラブ・オール・プレイ」まで）を確保して次の試合を開始する。
- 11 競技の服装（開閉開式を含む）は、審査合格品とする。また、大会要項に記載されているとおりに必ず指定されたゼッケンをつけ、四隅を留めることとする（背面表示がある上衣は、ゼッケンで全て覆い隠すこと）。なお、ウェアからはみ出すタイプのインナー等についても審査合格品とする。
- 12 各ゲーム間のインターバルは120秒以内とする各ゲームでどちらかの選手が11点になったときには、60秒を越えないインターバルをとることができる。
- 13 審判員の判定に対して疑問があるときは、個人戦の場合は当該プレイヤー、団体戦の場合は当該プレイヤーまたは監督が質問できる。（大会運営規程第6章第36条）
- 14 フラッシュや、ライトを点灯させての撮影、および、競技フロア内での撮影は禁止します。
- 15 試合中の水分補給は、基本的に主審が汗ふきタイムを認めたときに、試合進行に影響が出ないように素早く済ませること。ただし、飲み物はスクイズボトルに入れること。
- 16 指定のカゴに入れて良い物は、交換用ラケット（ケースから出しておく）、タオル、スクイズボトル、滑り止めのみ。その他の物はベンチ、または、コーチングシートで保管すること。氷のうは、保冷バッグに入れてベンチ、または、コーチングシートで保管すること（カゴには入れない）。
- 17 ウェア（上衣）の裾は、下衣に入れること（特に入退場や挨拶時、インターバル時）。
- 18 フロア内での飲食やハードタイプのクーラーボックスの持ち込みは禁止します。
- 19 原則として試合に負けたチームの監督、外部指導者（コーチ）、マネージャー（教員）が主審をすることになるので、試合終了後、直ちに本部席で次の試合の審判用紙等を受け取ること。線審・得点係は開催地の生徒で行う。
- 20 「競技役員長（レフェリー）から競技審判上の確認と連絡」のページを熟読すること。